

「アントレプレナーシップや英語教育を強化 世界に羽ばたく学生を育成」



第3回崇城大学ビジネスプランコンテストで優勝した「崇城大学Ciamo」のメンバーと中山学長



中山 峰男 学長

学生ビジコンを「総なめ」 自らファンド会社も設立

崇城大の起業家育成プログラムが注目を集めている。全学部の学生を対象とするカリキュラムとして「ベンチャー起業論」や「イノベーション論」が生まれ、学生たちはそこで学んだことを部活動「SOJO Ventures (ベンチャーズ)」などを通じて実践している。これらの取り組みが始まって3年になるが、当初から目覚ましい成果を挙げ、今年度だけでも「第3回九州未来アワード」で大賞、「NEDO主催ビジネスプランコンテスト」でグランプリ

と枚挙にいとまがなく、各賞を「総なめ」にしている。中山峰男学長は「副賞として授与されるシリコンバレーでの研修や留

学の権利を三つも持っているチームもあるくらいで、内容は全国トップレベルと言っている」と誇らしげだ。

また熊本県と共同で毎年開催する「崇城大学ビジネスプランコンテスト」は、同大の学生以外にも参加できるオープン方式で運営。「米国のシリコンバレーのように、若い力で地域を活性化させたい」とする中山学長の思いを受け、第3回となった昨年は、高校や他大を合わせ78チームもの応募があった。

今後は資金調達面にも踏み込む。今年2月、ファンド会社「SOJOスタートアップラボ」を設立。1億円のファンドを組んでおり、学生たちの起業活動をより一層バックアップするための体制を整えた。

英語学習施設リニューアル エアラインパイロットも養成

内の英語学習施設「SILC (シルク)」がその拠点で、学生が教員と英語でコミュニケーションする自律学習を促進するなどして、英語力を高める環境を整えている。施設は、熊本地震の被災で建て替え中だが、来年4月にはバージョンアップして再開する。

エアラインパイロットや航空整備士の養成もまた、大きな特色だ。工学部宇宙航空システム工学科に航空操縦学専攻と航空整備学専攻があり、熊本空港には大学では唯一の空港キャンパスを所有。「技術だけでなく、多くの乗客の命を預かる責任感や使命感の養成」(中山学長)も踏まえた教育を念頭に、大手を含めて多くの航空会社にパイロットや整備士を輩出している。航空操縦学専攻の定員は現在20人だが、2030年から始まると思われるパイロット不足問題を受けて、業界からの要請もあり、今後増員も検討しているという。

また、昨今は外資系企業の進出やITの発展により、ビジネスにおける英語の重要性が増しているが、崇城大でもグローバル人材を育てようと、英語教育にも力を入れている。ネイティブの外国人教員が多数配属されている、学

「若いということは、何でもチャレンジできる。やりたいことが見つければ、彼らは一生懸命に取り組む。そうなればしめたものだ」と中山学長。わが国の将来を担う学生たちに、熱いエールを送り続けている。